

所属・氏名（保健医療学部 診療放射線学科 氏名：山中 英理子）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (著書) 『神話・象徴・文化 III』	共著	平成 19 年 5 月	楽瑯書院	<p>著書全体の概要：神話学を中心に、図像学、文学、文化人類学まであつかう論集。国内外の研究者による人文・社会学の試論、詳論からなる。 (総ページ数:814頁)</p> <p>(著書全体の著者名 Philippe Walter, Arlette Boulomie, Anna Caiozzo, Christian Le Dimna, Emmanuel Antier, 篠田知和基, 栗原成郎, 中堀正洋, 渡邊浩司, 上村くにこ, 浅香幸枝, 松村一男, 森田和彦, 加藤千代, 諏訪春雄, 森 雅子, 依田千百子, 山本 雅, 伊達美和子, 池田慎太郎, 藤井康生, 森川龍志, 中島廣子, 坂田幸子, 山中英理子 その他)</p> <p>担当部分の概要:リットン・ストレイチーの人生と『ヴィクトリア女王伝』 ストレイチーの同棲相手であった女流画家ドーラ・キャリントンが『ヴィクトリア女王伝』に与えた影響については、これまでも指摘されてきたが、作品を通しての具体的な検証はなされていなかった。そこでまず、ストレイチーとキャリントンの人間関係が築かれる過程をたどりながら、その関係の本質を、両者の伝記と書簡から明らかにした。さらに、ストレイチーとキャリントンの関係と、ヴィクトリア女王と夫アルバート公の関係との類似性を、『ヴィクトリア女王伝』を通して検証した。 (担当ページ: pp.125～36)</p>
2 (学術論文) リットン・ストレイチーにみる歴史記述の先駆性—「6人の英国歴史家」をめぐって—	単著	平成 20 年 6 月	『英詩評論』 第 24 号 pp. 75-85 中国四国イギリス・ロマン派学会発行	<p>ストレイチーの最後の作品である伝記的エッセイ集『てのひらの肖像画』に収められた「英国歴史家」に関するエッセイ6篇を取り上げ、そこに表れるストレイチーの歴史への態度を明示した。また、「ギボン」、「マコーレー」、「フルード」の3篇を通して、ストレイチーの歴史記述方法について考察し、その先駆性を指摘した。</p>